

平成23年度第1回 浄化槽講習会開講式あいさつ

社団法人千葉県浄化槽協会
理事・事務局長 成岡 茂

本日は、当協会の講習会に参加いただき、ありがとうございます。

この浄化槽施工技術・法令講習会は、今年で4年目となります。今年度は、同様の講習会を2月2日に予定しています。県内各地から、南は南房総市、いすみ市、東は横芝光町、匝瑳市、北は香取市、成田市、西は市川市、野田市など広い地域から参加をいただいています。また、本日の受講者は32名ですが、浄化槽協会の会員13名、会員外19名となっています。

今年3月11日に発生しました東日本大震災では、2万人に近い犠牲者が出ています。特に東北の太平洋岸には地震後、大津波が押し寄せ街を飲み込みました。震災から8か月が経つ現在でも多くの被災者の皆さんが避難生活を余儀なくされています。被災地の皆様方には心からお見舞い申し上げます。

千葉県においても、浦安市や習志野市、香取市などでは地震による液状化現象が起こり、旭市や九十九里の沿岸地域においては津波の被害がありました。

私は香取市と旭市に震災後3か月くらい経った頃にお邪魔しましたが、香取市の利根川沿いの住宅地では電柱が傾き、道路が波打っていました。また、旭市では津波により海岸沿いの住宅地が根こそぎもっていかれてしまいました。

当協会では、震災後の3月後半に、浄化槽の被害調査アンケートを行ったところ35件の報告があり62基の浄化槽の被害報告がありました。特に液状化による浄化槽の浮き上がりが40基あり地震の凄まじさを感じました。

現在でも、習志野市や仙台市の下水道が仮復旧のままで、排水処理が十分できないまま放流している状況です。全浄連では、震災の復興は、普及が早い浄化槽で行うのが適当であるとのアピールを国や関係自治体に行っているところです。震災報告はお配りした「浄化そうちば」第76号に掲載しています。

今回の震災を通じて、地震に強い浄化槽の施工をどうするかという課題も出ています。新潟での中越地震の教訓を踏まえ、根巻きコンクリートによる浮上防止対策、底盤と上部スラブとを4本の柱で緊結する工法などが有効とされていますが、地盤の液状化については、地盤性状の改善など根本的な対策が求められています。

本日は、午前中は県の担当者、午後はシステム協会の専門家やメーカーによるカットモデルの解説など、実務に役立つ情報を皆様に提供したいと考えています。今回の講習会が皆様にとって有意義なものとなりますようお願いし、開講にあたりましての私からの御挨拶といたします。

以 上